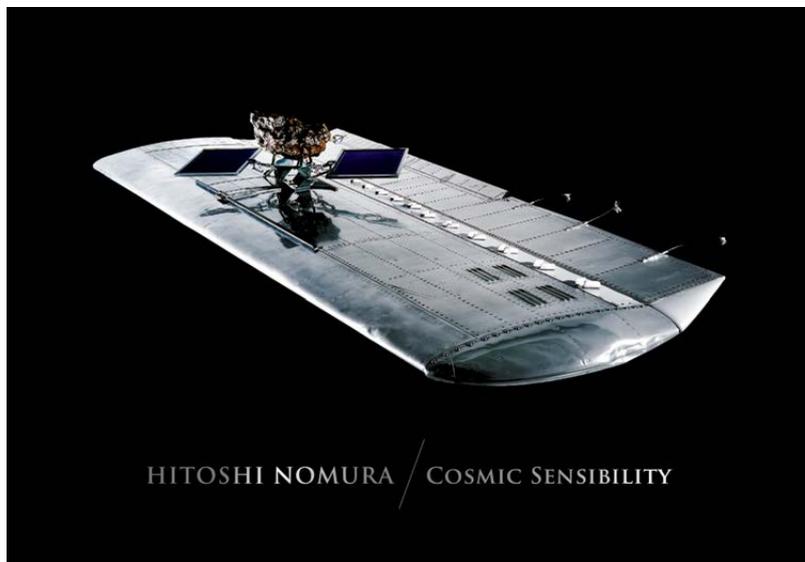


© ACG プレスリリース - 展覧会開催のご案内 -

野村仁「コスミック・センシビリティ」

Hitoshi Nomura *Cosmic Sensibility*

《軟着陸する隕石 '97》1991-1997 | 隕石、ソーラーパネル、ミクストメディア | 180 x 605 x 250 cm

はらかな宇宙を旅してきた隕石が、今ここに在ります。気の遠くなるような時の経過を想像しながら隕石を見つめ、そっと触れていると、名状し難い不思議な気分にも包まれるのです。また、ソーラーカーに乗って風を切っているときにも同様のことを感じます。思い返してみると、宇宙がこのように身近になるときが幾度となくありました。例えば、自然の事象にレンズを向け、長時間露光や二重撮影の反復をしているときにもしばしば生じ、宇宙は至近距離にあるのだと気づかせてくれます。――

野村仁「自然は時間と共に真の姿をあらわすか」より
展覧会図録『野村仁 変化する相一時・場・身』(2009、国立新美術館、p.14)

現代美術家・野村仁(1945-2023)の個展を開催します。本展では、宇宙から飛来した隕石をYS-11の尾翼に載せ、地上に迎え入れる大型作品《軟着陸する隕石'97》(1991-1997)をメインに、野村の彫刻制作を貫く「コスミック・センシビリティ」の意識を代表作の数々とともに紹介します。

重力や時間とともに変化する物質の様相をカメラで捉え、野村は1960年末より写真を主要な彫刻作品とする制作をスタートさせました。70年代半ばには天体の動きにレンズを向け、以来、身の回りの事象や生の営みが崇高でダイナミックな自然の秩序に基づく関係性に関心を深めていきます。扱う素材やメディアも多様化し、宇宙の起源、生命の誕生、地上生物の進化過程といったスケールで「時」を記述し、物の成り立ちや現象の背後にある「モト」を照射する独自の空間表現を探索していきました。

80年代に入り、隕石を初めて入手した野村は、「そのかたちが面壁の達磨と衣を広げ風に向かって歩く釈迦に見えた」ことから、果てしない時間と空間とともに現れる宇宙の造形力の存在に気づきます。その思考と意識のもとに生まれる新たな創造の拡がりをも「コスミック・センシビリティ」と呼び、90年代より隕鉄を用いた作品を発表。小隕石を肖像や事物に見立て、ユニーク彫刻として大理石に載せ提示する作品や、DNA模型と組み合わせた作品などを手がけました。

アートコートギャラリーは約20年に渡り、野村仁の先進的な活動発表の場となり、制作のエネルギーを間近で見る機会に恵まれました。「物質と生命を貫く大切な何か」を捉え、夜に浮かぶ星や月の光のように、宇宙を身近に知覚できる数多くの作品を生み出し続けた野村仁を再び見つめ、旅立ちから1年となる時を本展で皆様と過ごすことができれば幸いです。

【展覧会概要】

観覧先：野村仁「コスミック・センシビリティ」

Hitoshi Nomura *Cosmic Sensibility*

会期：2024年9月21日 [土] - 10月26日 [土] *日・月 休廊

会場：アートコートギャラリー (大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F)

開廊時間：11:00-18:00 [土曜日-17:00]

◎関連イベント 10月17日 [木] 18:00-19:30

お月見トーク「野村仁とコスミック・センシビリティ」

ゲスト：名和晃平(彫刻家、Sandwich Inc.主宰)

聞き手：牧口千夏(京都国立近代美術館 主任研究員)

定員：20名(要予約/info@artcourtgallery.com)

主催：アートコートギャラリー(株式会社八木アートマネジメント)

協賛：三菱地所株式会社、三菱マテリアル株式会社、三菱地所プロパティマネジメント株式会社

協力：有限会社野村研究室

【主な出品作品】

- ・《コスミック・センシビリティ：未来人》(1994-2009)
- ・《正午のアナレンマ '91》(1991)
- ・《軟着陸する隕石 '97》(1991-1997)
- ・《自転する地球 Aug.30,1979 17:07-17:37》(1979/ 2012)
- ・《Calamites・Odontopteris & HCG 40(2.9億光年)》(2007)
- ・《'moon' score》(1979, 1980/ 2017) および 関連資料
など、計11点を予定。

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [八木・大場] *ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問合せ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋 1-8-5 OAPアートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5449 E-mail:info@artcourtgallery.com www.artcourtgallery.com

© Artist CV

野村仁 Hitoshi Nomura

1945 兵庫県生まれ
1967 京都市立美術大学卒業
1969 京都市立美術大学専攻科修了
2023 10月3日 永眠 享年78

【主な個展】

1970 「昇華する沃素と時刻表」ギャラリー16、京都
1987 「近作展2・野村仁 Spin & Gravity」国立国際美術館、吹田
1989 「Cosmo Chronography」INAX ギャラリー、東京
1993 「CRYO PHENOMENA」アートギャラリー・アルティアム、福岡
1995 「CHANGE over TIME」スパイラルガーデン、東京
「CHRONOSCOPE」東京都写真美術館、東京
1996 「CHRONON & PROTOMORPH」中京大学 C・スクエア、名古屋ー
「Cosmic Sensibility が作用して・・・」ギャラリーKURANUKI、大阪
「Soft Landing Meteor & DNA」ギャラリーGAN、東京
1998 「One with the Cosmos」ギャラリーKURANUKI、大阪
1999 「Mission to America & Jurassic Giant Tree in Tokyo」ギャラリーGAN、東京
2000 「野村仁ー生命の起源：宇宙・太陽・DNAー」水戸芸術館現代美術センター、水戸
2001 「野村仁ー移行／反照ー」豊田市美術館、豊田
2004 「新作展ーchroma & chromaticー」アートコートギャラリー、大阪
2006 「Hitoshi NomuraーAn Introduction, Photo works 1975-92ー」MaCaffrey Fine Art、ニューヨーク
「野村仁ーCosmo Arborー」アートコートギャラリー、大阪
2007 「Hitoshi Nomura: Chrono & Chroma」アートコートギャラリー、大阪
2008 「Hitoshi Nomura: Gravitational Shape & FlavorーThe Sun, Meteorites and The Bodyー」アートコートギャラリー、大阪
2009 「野村仁: 変化する相一時・場・身体」国立新美術館、東京
「野村仁退任記念展: View From Space, From Here On...」アートコートギャラリー、大阪
2010 「Hitoshi Nomura: Marking Time」MaCaffrey Fine Art、ニューヨーク
2013 「野村仁: 身体／知覚 又は 私を「私」とおもう私」アートコートギャラリー、大阪
2015 「Hitoshi Nomura: Contingency and Necessity [野村 仁: 偶然と必然]」MaCaffrey Fine Art、ニューヨーク
2017 「野村仁: 光と地の時間」アートコートギャラリー、大阪
2018 「野村仁: 宇宙開闢年表 Cosmic Sensibility が成し遂げた3つのステージ又は 限りなく遠い記憶」アートコートギャラリー、大阪
「日本美術サウンドアーカイヴー野村仁《音調、強度、時間を意識して、レコード(糸)を操作する》1973年」(Art & Space ここから、東京)
2021 「野村仁 時空と生命: 表徴化予想と顕れ」アートコートギャラリー、大阪
2022 「ACG Villa Kyoto Vol.009 野村仁 コスミック・センシビリティー: 光子と膨張」ACG Villa Kyoto、京都



《ゆらく球体と暗黒エネルギー 又は ゆらく宇宙の出現》(2007)、他
展示風景「野村仁: 変化する相一時・場・身体」(国立新美術館、2009)
Photo: Masataka Nakano

【近年の主なグループ展】

2013 「Re: Questー1970年代以降の日本現代美術」ソウル大学校美術館、ソウル
2015 「Re: play 1972 / 2015ー『映像表現 '72』展、再演」東京国立近代美術館、東京
2016 「ART1 2016: Stepping into Fresh Snow」アートコートギャラリー、大阪
「宇宙と芸術展 かぐや姫、ダ・ヴィンチ、チームラボ」森美術館、東京／ArtScience Museum、シンガポール [-'17]
2017 「JAPANORAMAーNew Vision on Art Since 1970」ポンピドゥー・センター・メッセ、メッセ
2018-19 「アジアにめざめたらアートが変わる、世界が変わる 1960-1990年代」東京国立近代美術館／韓国国立現代美術館／ナショナル・ギャラリー・シンガポール
「ニュー・ウェイブ 現代美術の80年代」国立国際美術館、大阪
2019 「生きられた庭」京都府立植物園、京都
「REBORN ART FESTIVAL 2019」ホワイトシェルビーチ 萩浜エリア、宮城
「DECODE/出来事と記録ーポスト工業化社会の美術」埼玉県立近代美術館、さいたま
2023 「Re: スタートライン 1963-1970/2023 現代美術の動向展シリーズにみる美術館とアーティストの共感関係」京都国立近代美術館、京都
「コレクション企画 梓と波」豊田市美術館、愛知
「コレクションルーム 特集 Tardiology への道程」京都市京セラ美術館、京都

【主な作品収蔵】

大阪中之島美術館／北九州市立美術館／岐阜県美術館／京都国立近代美術館／京都市美術館／国立国際美術館／埼玉県立近代美術館／
滋賀県立近代美術館／千葉県美術館／東京国立近代美術館／栃木県立近代美術館／鳥取県立博物館／姫路市立美術館／兵庫県立美術館／
広島市現代美術館／目黒区美術館／森美術館／和歌山県立近代美術館／Dallas Museum of Art／Getty Research Institute／
International Center of Photography／Musée d'Art Moderne Saint-Étienne／Museum of Modern Art, New York／
San Francisco Museum of Modern Art